

第76期（2025年度）事業の概況

1. 会 員

会員数は、2025年12月31日現在、名誉会員8、個人正会員1,253、団体正会員340（379口）、学生会員199の計1,800であった。理事会及び会員委員会を中心に会員数の増強に努力し、個人正会員80、団体正会員10（10口）、学生会員108の新入会を得たものの、個人正会員106、団体正会員13（13口）、学生会員112の退会があり、前年同期に比べ計33が減少した。

2. 会 計

当初予算の収益は、会員数及び景気動向などを考慮し、前年度決算より受取会費87万1,000円減、事業収益15万1,300円減とした。これに対し受取会費は、前年度決算より57万1,250円減、事業収益は、前年度決算より345万4,926円増となった。経常収益計は、ISO/TC107第36回総会の助成金及び負担金451万9,070円を含め、1億261万6,892円であった。

一方、費用は、前年度決算より282万839円増となった。前年に引き続き、対面開催による活動の拡大により会議費、行事費が増加したことに加え、Windows OSサポート終了に伴うPC刷新により消耗什器備品費が増加した。さらに、近隣相場との乖離是正に伴う賃貸借契約の改定により、当年度下半期以降、事務所家賃が増額となった。経常費用計は、ISO/TC107第36回総会の費用269万795円を含め、8,935万4,580円であった。

以上のとおり、一般正味財産は1,326万2,312円増、指定正味財産は増減なく、正味財産の当年度末残高は2億1,328万2,984円となった。なお、ISO/TC107第36回総会の剰余金182万8,275円については、特定資産「国際標準化推進積立資産」として管理し、今後の国際標準化活動に充当することとした。

3. 講演大会等

第151回講演大会（2025年3月12日～13日）は、東京都市大学 世田谷キャンパスにおいて開催した（発表131件、参加登録者414名）。第152回講演大会（2025年9月9日～10日）は、福岡工業大学において開催した（発表件数145件、参加登録者391名）。

なお、第151回講演大会において「第31回学術奨励講演賞」を10名に授与した。また、第152回講演大会において「第27回優秀講演賞」3名、「第14回学生優秀講演賞」5名を選考し、第153回講演大会（2026年3月10日～11日）において授与する予定である。

4. 会 誌

12テーマの小特集及び特集を企画し、年間12号の会誌「表面技術」を発刊した。ページ数は総計612ページ、掲載論文は、研究論文10件・技術論文5件・ノート2件・速報論文4件であった。

J-Stage [科学技術情報発信・流通総合システム]には、「表面技術」の前身誌である「金属表面技術」及び「現場パンフレット（後改称：実務表面技術）」の創刊号から第76巻（2025年）6号までを登載し、研究論文・技術論文・ノート・速報論文については、第76巻（2025年）12号掲載論文までを登載した。

5. セミナー

実習セミナーは現地開催、その他のセミナーはオンライン方式で開催した。夏季セミナー“表面処理入門講座（Ⅰ）”（6月19日）、夏季セミナー“表面処理入門講座（Ⅱ）”（7月30日）、夏季実習セミナー“ドライプロセスの基礎と薄膜作製”（8月8日、於：千葉工業大学 津田沼キャンパス）、夏季実習セミナー“めっき液の分析と管理”（8月26日、於：神奈川大学 横浜キャンパス）、秋季セミナー“めっき現場における要素技術”（10月3日）、秋季セミナー“難処理材へのめっき技術”（11月5日）、冬季セミナー“研究/技術者のための表面処理基礎講座”（12月4日）、冬季セミナー“めっき現場におけるIoT, AI, DX化〈活用,導入〉”（12月16日）を開催した。参加者の合計は300名であった。

6. SURTECH

「SURTECH 2025－表面技術要素展」は、東京ビッグサイト 東3ホールを会場として開催（2025年1月29日～31日）した。出展社(機関)は、53社/機関、85小間であった。特別企画コンセプトゾーンでは、全国鍍金工業組合連合会に所属するめっき事業所22社、日本表面処理機材工業会の会員5社による企業展示を実施した。来場者は同時開催展示会を含め42,089名であった。

なお、SURTECH 2026 実行委員会では、SURTECH 2026（2026年1月28日～30日）開催に向けて、「環境対応技術」、「表面改質・ドライプロセス」、「電子部品・半導体パビリオン」の特別展示ゾーン及び特別企画めっきパビリオン等の企画を進めた。

7. 国際交流

アノード酸化皮膜の機能化部会（ARS）は、6月1日～4日、ホテル日航成田において、4th International Symposium on Anodizing Science and Technology 2025（AST2025）を開催し、盛況裡に終了した（招待講演31件、口頭発表32件、ポスター発表28件、参加者16ヶ国 約140名）。

8. JIS 規格検討専門委員会

前年度に改正作業を終了した溶融アルミニウムめっき（JIS H 8642 : 2025）が、日本産業標準調査会 第39回金属・無機材料技術専門委員会による審議の結果、3月21日に公示された。

9. ISO 規格検討専門委員会

国際標準化機構（ISO）のTC 107部門（金属及び無機質皮膜）の国内審議団体として、特別委員会の中にISO規格検討専門委員会（兼務：ISO/TC 107国内対応委員会）を置き、国際規格の制定などに協力した。前年度からの継続事業として「令和7年度経済産業省エネルギー需給構造高度化基準認証推進事業費 省エネルギー等国際標準開発（国際標準分野（新規対応分野）」の再委託事業を(株)島津製作所と共同で受託した（テーマ名：温度環境制御下での樹脂めっきの密着力測定方法に関する国際標準化）。規格化作業を進めてきたISO 25245は8月にDIS登録され、FDIS登録のための作業を進めた。

10. 表彰

協会賞1名、功績賞2名、論文賞1件、技術賞2件、進歩賞2名、技術功労賞1名を表彰した。

11. 表面処理団体協議会（表団協）

本会及び全国鍍金工業組合連合会、日本表面処理機材工業会の3団体で組織する表面処理団体協議会は、運営委員会2回、代表者会議1回を開催した。「SURTECH 2025－表面技術要素展」の会期中（2025年1月31日）に第33回表団協セミナーを開催した。また、産官学合同会議 第23回情報交換会を11月20日、オンラインにて開催した。なお、SURTECH 2026 会期中（2026年1月30日）に第34回表団協セミナーを開催する予定で準備を進めた。

12. 支 部

北海道・東北・関東・中部・関西・九州の各支部は、それぞれの地域特性に対応した諸活動を行った。また、九州支部は第152回講演大会の成功に貢献した。

13. 部 会

本期に活動している部会は以下のとおりである。

- ① アノード酸化皮膜の機能化部会
- ② ウェットプロセス研究部会
- ③ 界面部会
- ④ 高機能トライボ表面プロセス部会
- ⑤ 材料機能ドライプロセス部会
- ⑥ 将来めっき技術検討部会
- ⑦ 表協エレクトロニクス部会
- ⑧ 表協青年経営技術懇話会
- ⑨ 表面技術環境部会
- ⑩ 表面技術とものづくり研究部会
- ⑪ めっき部会
- ⑫ ライトメタル表面技術部会